



木漏れ日浴びて幽玄の世界へ・・・



ナメコ



シメジ



ムキタケ

日 時 2007.11/10-11
 県 名 京都府
 山 域 美山町芦生
 ル ー ト 須合--七瀬--ユゴ谷--下ツボ谷--由良川源流(泊)-
 -笠峠手前--ケヤキ坂--内杉谷川--須合
 メンバー 石野・玉田・大塚・宮本・大本
 装 備 沢装備、テント泊装備
 天 候 晴れ

紅葉シーズンの山はキノコ採りがメインだ。京都美山町芦生の山奥深く、由良川源流へ遊行した。この時期はナメコの収穫を期待して、蕎麦や大根等々、鍋材料一式とテントを共同装備して各自20kg近くの重さのザックが肩に食い込んでくる。

芦生から由良川沿いにトロッコ道を七瀬まで約2時間半かけて、ほぼ平行移動で朝の清々しい空気に酔いながら、木漏れ日を体一杯に浴



ナメコおろし蕎麦



トロッコ道を行く

びて久々の大自然を堪能して行く。
途中崩壊した釣り橋を四つん這いになりながら恐る恐る渡る、こんなところで落ちたらシャレにもならない。



崩壊した吊り橋



遡上しながら深山へ

七瀬に着く手前で早速に親指大のルビーの輝きのナメコの群生を発見！。
七瀬からは源流を溯上しながらミズナラの倒木を見つけては物色する。群生している箇所にはビー玉が鈴なりになってプリプリに輝いている。ほかにもナラタケ、ムキタケなど色々と採りながら、今晚のキノコ料理にと楽しさが増すに連れてそのぶん重さも増してくる(；_；)



最初の一滴が終わり急登が続く

今日の予定は大谷を過ぎた辺りの中州でキャンプ泊なのだが、このまま源流を溯上しても沢登り的には消化不良なので、アイノ谷の次のユゴ谷を登り、稜線に出て下ツボ谷を下降する計画に変更...沢登りは度々に計画変更がつきものなのだ(^ ^)。

ユゴ谷は、小さな谷だが両側はそそり立ちV字になり、いろんな倒木が所狭しに入り乱れて至る所が堰止められてる。それらの倒木をよく観察して食用キノコを採取して行く。

沢も終りになる頃には必ず最初の一滴が山の懐から落ちている。高度600m付近を過ぎるとあと100mほどは必ず急峻になり尾根にたどり着くには、いつものように草木を掴みながら急坂に這いつくばり歩伏前進である。



緊張の下降

尾根に取り付くと今度は下ツボ谷の枝沢を地図読みしながらヤブコギ下降が始まる。

楽しんで下っていると、いきなり5mほどの滝の上部へ出くわす。たかが5mでも墜ちればただ事ではない、滝横から降りるのだがこれが手掛かり足掛かりがないに等しい、トップ石野氏が慎重に下ってから二番手の私が降りるのだが、下の石野氏に「次は何処に足置くんやー」と滝の音に負けない位の大声で怒鳴るように下から誘導してもらってかろうじて下降終了。三番手大本はやはり途中でギブアップ、しかしここは慎重にセルフビレーを取って、石野氏のサポートも手伝って安全地帯までリボンテープをつないで何とか全員下降完了する。後で聞くと玉ちゃんと宮本さんは「ロープなければ絶対に降りれなかった」と言っていた。今日一番のスリリングな場所であった。



絶好のキャンプサイト

本谷に合流したところで小休止を入れて、再びナメコ探しに翻弄するが収獲はなかった。本流から少し下った所で由良川源流に合流する。そこで絶好のキャンプサイトを見つけて早速に設営開始。

沢キャンプには欠かせない焚き木集め、キノコの下ごしらえ、大根をお

ろしたり、と各自の仕事に取り掛かる。いつもならまずは冷えたビールで乾杯なのだが、採れたてのナメコおろし大根蕎麦に下つづみして乾杯が始まる。



焚き火でご飯を炊く

焚き火の煙が森中に浮遊して幽玄の世界に変わっていく・・・。

聞こえるのは沢のせせらぎと鹿の歌声だけ...

17時も過ぎると薄暗くなり、ユラユラする炎を囲みながら長い夜に山話談笑が始まる。

夜も暗くなってくると、いつの間にか木々の枝間から見える闇は満天

の星空に変わっていた。焚き火から離れると、一寸先は闇とは言ったもので足元すら見えない。

翌日は大谷を登る予定であったが、空が薄暗くなってきたので計画変更して、大谷を過ぎた辺りから昨日に取り付いた尾根に登り稜線伝いに傘峠登山道へ出てケヤキ坂経由で内杉谷川を下り芦生のPへ帰る計画にする。

昨日の稜線に出るまでが難儀する急峻な坂でやはり草木を掴みながら必至に歩伏前進で登る。稜線に出ると694mピークまでは痩せ尾根で再び急な登りが待っている。ふくらはぎが悲鳴を上げている。ピークを過ぎるとなだらかになり落葉のジュウタンの散策であるが、至るところにユズリ葉の木が行く手をじゃまをして素直に道をゆずってくれない。

傘峠の分岐からケヤキ坂の林道までは、落葉道でハイキングなのだが単調なのでとても長く感じる。

ケヤキ坂からは、林道沿いに走っている内杉谷川へ下降してナメコを土産にと沢筋を下ったが収獲はなかった。

熊の罠が仕掛けてあるドラム缶の所から再び林道へ上がり、30mはあるメタセコイヤを植林している林道沿いを約3kmもテクテクと須合Pまで歩くがこれが今日一番の辛い道中であった。

14時にPに着くと昨日は車1台だったのに、マイクロバス3台、乗用車20台ほどは止まっていた。道中誰一人として出会わなかったのに、一体何処に入っているのだろう。

今シーズンのキノコ採りもこれで終わり、次回は雪山まで山はお預けである。

今シーズンは雪が積もりますように・・・